



11月は死者の月ですね。11月2日の主日のミサの時に帰天された方々の写真を各自持ち寄って聖堂に顕示し、共に祈りましたが、普段から大切な家族や友達など、一足先に神様のもとにお帰りになった方々のことは皆さんの胸の中に留まっておられることでしょう。その中には以前お世話になった神父様もいらっしゃるでしょうか？

司祭が神様に召されるときのことを書かれた文章（フィリピンのランヒリオ・C・アキノ神父様）を見つけたので紹介します。

+++++

司祭が天に召されるとき

司祭が天に召されるとき、彼は今まで生きてきたように逝く…一人で。

他の者には家族がいる。子供達や孫たちが彼の死の床を取り囲み、涙ながらに別れを告げ、天国が彼を迎えてくれることを祈る。

司祭が地上での生涯を全うするとき、その両親はとっくに先立っている。

そう、司祭には兄弟姉妹、甥や姪がいるかもしれないが、彼らには彼ら自身の家族があり、どの司祭も自分が彼らの優先事項ではなく、また決して優先されることはないことを痛感している。

私は多くの司祭が、最も基本的な必要なものさえ自分で調達できないまま、無名のまま枯れ果てていくのを知っている。

病院のベッドでぐったりしている司祭を何人も知っている。

たまに看護師や医師が訪ねてきて、その場しのぎの奉仕をするだけ。

旅立ちのときが来ても、司祭の手を握り、その賜物に感謝し、見送る人は誰もいない。もちろん教区民や数人の友人たちは訪れるだろうが…。

通夜は教会で行われるだろう。

そして人々は弔問に訪れ、彼との思い出を語り合うだろう。

しかし長くは惜しまれないだろう。

彼が埋葬されると、墓にはしばらく花が供えられるだろう。

しかしすぐに蔦に覆われたり、茂みに隠れたりするだろう。

彼の命日に墓へ花を捧げる者など、おそらく誰もいないだろう。その命日さえ忘れ去られているかもしれないのだから。

私もまた、これが私の行くべき道だと知っている。

だからもし、いつか、かつてあなたを導いた司祭の記憶が、

あるいはあなたが深く落ち込んだ時に励ましを与えた司祭の記憶が、

あるいは信仰を深めるよう教え導いた司祭の記憶が思い起こされたなら、

そっと祈りを捧げてください。

神に、天の永遠の典礼における居場所を彼に与えてくださるようお願いしましょう。

そしてあなたの子供や孫、友人や知人たちに、彼のことを伝えてください。

司祭の生涯は、聖なる犠牲の祭壇で燃えろろうそくのようなのです。

自らを燃え尽きさせることによって、神に栄光を捧げ、孤独な運命に絶望しないのは、彼らが仕える神が決して忘れられない、という信仰ゆえです。そして生涯をかけて宣べ伝える主は復活され、父が与えた者を一人も失わない、という信仰ゆえなのです。

<https://www.facebook.com/share/p/1BxmUocH3L/?mibextid=wwXIfr>

< 黙想会 >

10月26日にイエズス会のバレンティン・デ・ソーザ神父様をお招きして黙想会を行いました。当日は雨模様で寒い日だったせいもあり、参加者が少なかったですが、分かち合いでは様々な話が出て、良い学びや気づきがありました。またデ・ソーザ神父様から、「大宮教会の信徒の皆さん一人ひとりが、さりげなく人手の足りないところに積極的に手を貸している様子に驚いた。みんなで協力して教会を作り上げていることに感動しました。」という嬉しい感想を戴きました。



< サンパウロ出張販売 >

10月19日サンパウロの出張販売がありました。

来年のカレンダーや手帳の他、クリスマスカードや修道院製のお菓子など、去年より規模は縮小されたとはいえ、多くの人が利用されていました。山野井さん、ありがとうございました。



内容【黙想会】【サンパウロ出張販売】【カリタスとのサポートセンター】【帰天された方】
【信徒総会】【財務部】【成人養成部】ゆるしの秘跡勉強会【典礼部】クリスマス準備
【デコレーション部】【ART DAYS205】【毎日のミサ年間購読】【今後の予定】
【ローマ巡礼の旅②】【サモア～主によばれて(44)】

+++++

<信徒委員会・各部からのお知らせ>

+++++

<信徒総会>

11月30日(日)ミサ後 予算案の承認と信徒会長の選出を行います。

<財務部より>

教会維持費を納入する際に金額を記載し一緒に封筒に入れている明細書ですが、これまではその年が終わったら各自処分するようお願いしてきました。今後はその年の分の納入が完了したら、財務部の方で保管することにしました。5年間保存した後破棄します。ご了承ください。

<成人養成部より>

*11月の第二日曜日(11/9)から第四日曜日(11/23)まで3回にわたって「ゆるしの秘跡」の勉強会を行います。(ミサ前の10:00~10:45)聖年の間にいただくゆるしの秘跡がより深いものとなるために、もう一度ゆるしの秘跡について学びましょう。

<典礼部より>

・馬小屋の設置 11月23日(日)ミサ前
・レネーションの設置 11月30日(日)ミサ前
(いずれも撤収は1月11日予定)

<デコレーション部より>

11月23日にクリスマスツリーを設置し、例年通り皆様に飾りつけのご協力をお願いします。

今年のテーマは丸(または球)です。「丸」は始まりも終わりもないことから、神の永遠性や完全性を象徴します。また

父と子と聖霊の三位一体を表すこともあります。

丸、または球体のオーナメント(手作りでも可、色・素材・大きさは自由)をご自由に飾ってください。

返却希望の方は名前をお書きください。飾るのが困難な方はツリーの前の箱にお入れください。

よろしくお願いします。

岩槻区 槻田

<ART DAYS2025>

*ART DAYS2025 12月13日(土)、14日(日)参加者募集中です。カウンターの申込書を記入、箱に入れるか、槻田まで

<https://catholic-omiya.org/action/>

<毎日のミサの年間購読について>

「毎日のミサ」の年間購読を個人でされている方へご提案です。大宮教会で「共同購入」をされませんか。共同購入されることで、カトリック出版部より、大宮教会への特典として、神父様の購読分、教会使用分の補填が増えます。どうぞ検討ください。尚、大宮教会の共同購入の期間は、新年度からとなります。申し込みは、来年2月よりお受けします。ご不明な点はご遠慮なくお問い合わせください。

「毎日のミサ」購読係

須田

+++++

<今後の予定>

🍀 11月16日(日) 堅信式(4名の予定) 山野内司教様司式

🍀 11月23日(日) 大掃除(ミサ後) 除草と窓ガラス拭き

🍀 11月24日(月・祝) 聖年の巡礼旅行(松が峰教会、太田教会)

巡礼旅行は申し込み締め切り 11月16日(参加費5,000円を添えて齊藤まで)

🍀 クリスマスの予定

12月24日(水) 降誕祭夜半ミサ 19:00~

12月25日(木) 降誕祭日中ミサ 10:00~

12月28日(日) 聖年閉幕ミサ(浦和教会) 15:00~

1月1日(木) 元旦ミサ 11:00~

※1月4日よりキリアーレ(賛歌)をCに変更します。

+++++

ローマ巡礼の旅②

ローマ到着後、AirBnB で予約したアパートまで Uber で移動、何とかチェックインすることができた。Uber も AirBnB もネットで予約しただけなので、本当に実態が伴うのかとても不安だったが、何の不都合もなく生活の拠点は構えることができたので、次は 1 か月の生活環境を整えることに着手した。掃除、洗濯、食材他必需品の買出しとゴミ捨て、キッチン器具の使い方習得と必需品の整備、スマホと PC の設定、そしてトラム、バス、地下鉄等の移動手段の確立とスキルの習得。分からないことだらけで、これらのことの習得に 3 日ほどかかってしまった。古い型のスマホなので、SIM のロック解除と交換が最難関だった。

4 日目から 4 大バジリカと有名な観光スポットの位置の確認と移動計画、時間帯と人々の動き、スリ対策とクレジットカードの使い方等々を、周囲の人たちに迷惑をかけながら、恥をかきながら習得していった。スマホでグーグルマップとグーグル翻訳をフル活用し、「ローマの街歩きは何とかなる」と思えるようになるには 1 週間以上の時が必要だった。一番ありがたかったのは、歩いて 30 分弱のところに「平和の聖マリア教会」という小さくてきれいな教会を見つけ、朝ミサに歩いて通うという生活の基本の型が確立できたことだった。

4 大バジリカや他の有名な大聖堂、カテドラルの訪問を 2 週間目から開

始したが、4 大バジリカはセキュリティーゲートを通過するのに大行列で、精神的余裕など全く確保できなかった。わさわさした状態で聖堂内を見学しても、祈ったつもりで聖なる扉をくぐっても、単なる計画遂行完了的な少しの満足感と大きな倦怠感が残るだけだった。でもまあこれは自分の性格を鑑みると想定内のことだったので、2 週目からは自分はどうありたいのかを見つめなおし、心と行動のパターンを再考し、再度 4 大バジリカを訪問することにした。



ローマの街の朝は早い、観光モードになるのは 9 時頃からということがわかってきていたので、4 大バジリカを訪問するには朝 5 時に起きて、バスかトラムの始発に乗り、6 時半には現地に到着し、7 時からのミサに出席するという作戦を立てた。早朝の地下鉄やバスの移動はとても緊張したが、それ以上にバジリカにどうやって入るのか、朝ミサには本当に与えることはできるのかという不安でいっぱいだった。そんな時、ポケットにある一連の口ザリオが本当にありがたかった。



目指す時間に現地に到着し、周囲を観察していると、なんとなく人の流れが見えてきて、神父様らしき人やシスター達が動く方向についていくと、聖堂の入り口と朝ミサが行われる小聖堂にたどり着けることが分かってきた。流れに乗って大聖堂内に入り、ミサの準備が整った小聖堂の祭壇近くの座席に腰を下ろした時、深い安堵感と感謝の気持ちでいっぱいになった。ミサはイタリア語で行われていたが、平和の聖マリア教会での朝ミサで、「罪の告白」「主の祈り」等、幾つかの箇所は日本語で言葉を合わせることができるようになっていたのも、周りの声とリズムがピタッとあう時もあり、そんな時は本当に心地よかった。遠くで響く鐘の音、司祭の声と所作の音（聖霊の鈴の音、ホスチアを割く音、ワインを注ぐ音、パテナを軽くたたく音等）が、聖堂内に静かに響き、ひんやり

とした空気に包まれながら、最後の晚餐とゴルゴダの丘のシーンが走馬灯のように浮かび上がってくるのを感じた。

ミサ後、まだ誰もいない大聖堂は静まり返っていて内部を見て回るには絶好の時間帯であったが、とてもそんな気にならず、ポケットの口ザリオを探りながら静かに聖なる扉を潜り抜け、大聖堂を後にした。



4大バジリカ訪問の2度目の訪問と朝ミサはこのような感じの流れでミサに与ることができた。ミサ後はボーっとした状態でアパートに戻って自炊のランチを済ませ、昼寝をしてから公園や人の少ない川沿いの道をぶらぶら散歩して過ごした。何か頭の芯が何か重たくて、その日はそれ以上のことはする気には全くなかった。

白岡 河本

+++++

✦ サモア～主に呼ばれて (44) ✦

この年のイースターは4月19日と遅かった関係か、3月中に学期間休みがありました。いつだったかは全く覚えていませんが、いろいろとボランティア仲間が誘ってくれました。この辺の記憶があいまいなのですが、4月には佳美が来たので、一人でボランティア仲間に誘われて行ったので、3月だろうと思っています。

これを読んでくださっている方からは、記憶力がいいですねと言われるのですが、古いパスポートを見ると出入国の日が分かります。また、環境が変わったばかりのことは記憶が鮮明なのですが、だんだんその環境に慣れてくると記憶があいまいになってきます。

この休暇の時には、アメリカ人のボランティアがサモア人の家に泊まりに行こうと誘ってくれました。アメリカのピースコー（日本の海外青年協力隊のようなもの）は、着任すると任国内での研修があるようで、ホストファミリーと呼ばれる家に2週間程度滞在して、サモアの生活習慣などを身に着けるようでした。1つのホストファミリーに2、3名のボランティアが割り当てられるようで、私の学校のボランティアが一人で2週間も過ごすのは難しいのではと考えてくれて、誘ってくれたのです。

ほかに行くところもない私は二つ返事で、誘いを受けました。サモアのどのあたりかも全く覚えていませんが、サモア人の家にお世話になりました。かなり村の方で、ファレと呼ばれる伝統的な家しかない家族でした。ファレはいくつかあり、家族とは別のファレに泊まりました。私は、男だったので、来客用に1つあるベッドに寝かせてもらいましたが、一緒に行ったアメリカ人のボランティア二人は床に寝ていたと思います。サモアは、当時はまだ家長制度が残っていて、男性優位な社会でした。ご飯も大人の男性が食べてから、女性と子供が食べるのがしきたりです。



また、外国人なので、カーテンを周りにめぐらし、外から着替えなどが見えないように配慮してくれていました。トイレは屋外にありました。ただ、穴を掘ってあるところに板を渡していました。子どものころにボーイスカウトでキャンプに行った時のことを思い出しました。穴は時々掘る場所を変えているようです。シャワーはなく、水浴びでしたが、学校のボランティアハウスには前の年まではシャワーはなく、外の蛇口で直接水浴びをしていたので、問題なくできました。

何日かおいて、同僚のアメリカ人のボーイフレンドが自分の家に招待してくれました。その彼は、会計業務の支援をするボランティアで来ていた関係で、別なところに家を借りていました。学校からは首都を超えて、さらに東の方に15kmくらいいったソロソロビーチというところに住んでいました。ソロソロビーチは観光地としてガイドブックなどには載っていましたが、ただ、黒砂のビーチで、珍しい感じがしますが、真っ黒なので観光的にはパツとしないです。

そこの丘の中腹に家がありました。こちらは西洋式のコテージを思わせる作りで、のんびりするには良いところです。泊まって翌日に、彼のホストファミリーの家に連れて行ってもらいました。お昼ご飯をごちそうになりました。大切なお客様の扱いで、料理もものすごくたくさんの種類を用意してくれていました。もちろんサモアの伝統料理です。ほとんど食べたことがあったので、おいしくいただいたのですが、1品だけ食べられませんでした。鳥の丸焼きのようなものがあり、「あれは何？」と尋ねると、「鳩」という答えが返ってきました。日本でもいろいろなところで目にしていたので、ちょっと思い出してしまい、食べる気にはなれませんでした。彼は「おいしい！」と言いながら、食べていました。それから何かのきっかけでサモアのことを思い出すたびに、あの時食べておけば良かったと後悔してしまいます。今だったら、きっと迷わず食べています。

見沼区 齋藤

✪ おおみや教会通信はカトリック大宮教会のHP (<https://catholic-omiya.org>) でご覧になれます。

* ご意見や投稿（本などの感想、特集してほしいことなど）を募集しています。

FAX か郵送で受け付けています

〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町2丁目350 FAX 048-641-2724

カトリック大宮教会 広報部宛

* おおみや教会通信 12月号は12/7 発行予定、原稿締め切り12/21

